



「なにこいつら  
ギアの力が通用しない！」

「アイ子さん!!  
このノイズ何なんですか?」

「あら響ちゃん  
珍しいのに遭遇しちゃったわね」

「ちよちよとアニーちゃんー！  
アニーちゃんー！」

「うーん、そいつらはノイズじゃないのよ  
対の存在というか  
ほらよくあるじゃない  
神話で処女懐胎とか神様がはらませたとか  
全部そいつらの仕業なの  
あ、種付けしたら勝手に消えるから大丈夫よ  
アフターピルは用意しておくから  
楽しんでやいなさい  
それじゃーね」





又ルツ…又ルツ…

「なに なに  
何をすするつもりなの」



「ひゃああ！  
まあってー！そんなとーる…いゃあッ  
触らないでー！」

く  
ぱあ



「きやあーらやあー  
「やめとせー」「らぶへらならんぞー」

グリグリ



「も、もうおちめて  
お願いゆるしてて」







ぬっ

『...』



どど  
びゅびゅ  
びゅびゅ  
るるる



「げほっ、げほっ」  
「うっな、これ、すい生臭い……」



（なんの音…いやあ…  
おまんこ女淫しにさわられたかった）

ゴリゴリ



（私まだ彼氏もいないのに…  
男の人じゃなくて

こんな触手にはじめて  
奪われちゃうんだ…！



ズボツ!

「ひぐう! ああつ!」

「いいいたいっ!」

嫌だ嫌だ気持ち悪い!

未来助けて!!! 未来!!!









「うっ…あそ…があっ…いよお…  
このまま妊娠しちゃうのかな…」



（んん…おっ…おっ…ぽんぽんぽんぽん）

（乳首がむき出しになって  
敏感になってるー！）



「お願いおっぱいもさわってほしい…」

「ちがう、私そんなこと思っていない…  
思っちゃいけないの…」



（乳首と脇が熱くてぬるぬるの  
触手「こすりつけられてるっ！」）

にゆるにゆる

（だめ気持ちよくなってる  
「こすりつけられてきもちよくなってる」）

「うう生臭い…あつたかくてくわら…  
こんなのかけられてなんで…」

「悦んでる私のからだ悦んでる…」

ゴューびゅるるるびゅるる



（はあ…はあ…なんでこんなに  
嫌なのに気持ち悪いのに）

悔しいの…  
感じちやうてくる…



（あつたかい……）

びゅるびゅるびゅるびゅる  
evenen







（あははは気持ちいい  
生臭くてあつたかあい  
ザーメンかけられるのって

こんな気持ちいいんだあ…  
もつと最初から素直になればよかった

「な、なんだこいつら、離せ、離せってんだ！」

「あ、クリスちゃんはじめでっけ  
この子たちは大丈夫  
種付けすればかってに消えてくれるから、  
あつ、あおいさんモニター切っておいてください」

「なんだそりやあ！」





「ば、馬鹿やめろ、止めろって言うってんだろー!」



「な、何するつもりだ

そんなと「引つ張るな！」

「あーあーあーあーあー」

びりりりり





「やめる、そんなとこ」広げるな」

くぱあ

「やめる入らないそんな大きいのはいらない！」

ぬぶぬぶ

「ひぎいいいいいい！あがつ…あつ…あつ…」  
（なんだこれ大きすぎる…息が…ああ…）

「やめてっつて言ったのにやめてっつて…  
ううまたかよ…またこんな…」

「なんだこいつビクビクして  
まさかなかに出すつもりか！やめるお  
お！なかになかに出すな！」

びゅるるびゅーびゅー





「ぐすっ…ぐすっ…ぐすっ…ぐすっ…ぐすっ…だすなっ…だすなっ…だすなっ…だすなっ…だすなっ…」

どろおー



「あああ、また入れられてる  
なんでだよ  
なんでこんなことするんだよ……」

「こいつら私を完全に  
孕ませるつもりだ  
孕ませるまで  
終わらないつもりだ……」

ぐぼぐぼ

ぬぷぷぷ  
じぶじぶ



「やめるもう出すな  
今だされたら身籠る  
身籠っちまうっつ！」

「ああ、子種が入っちまった  
化け物の精子受け入れて  
みごもっちまったあ……」

びゅるるっ

どぴゅ  
びゅっ



「ああ、子種が入っちまった…」

びゅぷっ

「化け物の精子受け入れて  
身籠っちまったあ…」





「なんでも絶対ゆるめなす...」



びゅっびゅっびゅっびゅっびゅっ

』



「……おぼえとけよ……ひくっ」

「……おぼえとけよ……ひくっ」

どろお……

「く、だめだギアの出力が下がって…」







「……うわ……うわ……うわ……」

「……のままじゃすまねえからな……」

「うう、てめえらのやった」と  
閻魔帳にのせたからな…  
絶対ゆるさねえからな…」





「ぐんぐん」

びゅるびゅるびゅるびゅる



「どうクリスちゃん  
気持ちよくなってきたでしょ」

「うう…そんなわけねえだる馬鹿…」

「泣かないで、ほらこの子たち  
こんな太くてあったかくて  
女の子の体をいっぱい  
気持ちよくしてくれんだよ  
怖がることなんてないよ」





「この子たちのサーメンミルク  
美味しいんだよちゅーちゅーするとね  
いっぱいえっちなお汁だしてくれるんだ」

「おい馬鹿！なにやってるんだよ」


「ウェー、ザーマンミルクおいしいよ  
どうウリスちゃんもほしくなったでしょ」

「そんなわけあるか…」

「隠したって無駄だよ  
もう体は我慢できなくなってるでしょ  
この子たちは分かってるんだよ」

びゅー  
びゅー





「ほらクリスちゃん  
もつと素直になって  
一緒に気持ちよくなるっ」

「この馬鹿…馬鹿…  
もういやだ…もう入れないで」



「あん、ほらクリスちゃん  
気持ちいいでしょ」

ぬ。ぶ。ぶ。ぬ。ぶ。ぶ。

ず。ぼ。づ。ず。ぶ。ぶ。

「はあんツ、認めない…  
こんなの気持ちよくなんか…」



「ああん、あつたかあい  
なかにいっぱい出されてる」

びゅるるびゅるる  
eNeNeNeNeNeNe

「ひぐう、ああダメ  
気持ちいいいいいいー」

